

授 業 科 目 名	倫理学				
担 当 教 員	横地徳広				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・1－2時限	単 位	2 単 位
地域志向科目	該当 する ・ しない				
<p>【授業としての具体的到達目標】</p> <p>受講生のみなさんは哲学の古典テキストであるハイデガー『存在と時間』を読み解き、この読解を通じて、諸事象を倫理的に思考する仕方を学びます。</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>アリストテレスが生きた古代ギリシャ世界では、「倫理学（ヘー・エーティケー）」の語源は「エートス」だと言われていたが（『ニコマコス倫理学』）、ハイデガーが説明するところ、エートスの原義は「住まうこと」である。このとき、世界に住まうのは私たち人間たちであり、そのエートスは、或る土地に住まうことで人間たちに分かちもたれる「気風」や「気質」という意味へと展開する同時に、その地に成り立つ共同体に広がった「習慣」や「習俗」という意味へと展開する。</p> <p>今年度の授業では、そうしたエートスの観点から、哲学の古典テキストを読み解いていく。</p>					
<p>【授業内容予定】</p> <p>毎回、担当者のレジュメを手がかりに受講者のみなさんがその内容を検討します。授業予定は、以下のとおり。変更の場合は授業で事前に知らせます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（読解箇所と担当の決定） 2 テキスト読解と解説（1） 3 テキスト読解と解説（2） 4 テキスト読解と解説（3） 5 映像資料をもちいた、20世紀前半の思想状況の説明その1 6 映像資料をもちいた、20世紀前半の思想状況の説明その2 7 テキスト読解と解説（4） 8 テキスト読解と解説（5） 9 テキスト読解と解説（6） 10 映像資料をもちいた、20世紀前半の思想状況の説明その3 11 映像資料をもちいた、20世紀前半の思想状況の説明その4 12 テキスト読解と解説（7） 13 テキスト読解と解説（8） 14 テキスト読解と解説（9） 15 まとめ 					
<p>【教材・テキスト】</p> <p>Martin Heidegger, <i>Sein und Zeit</i>, Max Niemeyer, 1967(1927) ※PDFで入手可能です。</p>					
<p>【参考文献】</p> <p>適宜、紹介されます。</p>					
<p>【成績評価の方法および採点基準】</p> <p>授業でのレジュメ担当評価と平常評価。</p>					
<p>【授業形式・形態および授業方法】</p> <p>演習と講義の混交形式。</p>					
<p>【留意点・予備知識等】</p> <p>授業への参加希望者は、横地まで必ずメールすること。 アドレスは西洋倫理思想研究室（人文414）に掲示してあります。</p>					
<p>【オフィスアワー】</p> <p>メールでアポをとってください。</p>					

